

# 第10号 稲作管理特報

令和4年10月21日  
朝日町  
黒東地域農業技術者協議会

## 「いざ土づくり！ 美味しい富山米を届けよう！」

土づくりは、美味しい米づくりの基本です。近年、肥料価格が高騰していますが、登熟期の高温など気象変動に強い稲づくりのため、ケイ酸質資材や有機物の施用などの土づくりをしっかりと行いましょう。

### ◆ 秋の土づくり運動実施中 11月15日(火)まで ◆

#### ポイント1 秋耕の実施 … 稲わらなどの腐熟を促進

・秋耕は地温の高い10月中に実施し、稲わらや籾殻をすき込みましょう。

（秋耕に合わせて、石灰窒素(20kg/10a)を施用することで、稲わらなどの腐熟が促進されます(ただし、倒伏しやすいほ場では次年度の基肥量を2割程度減肥して下さい)。

- ・秋耕後は、排水溝を設けて水はけを良くし、腐熟促進に努めましょう。
- ・長雨等により、ほ場がぬかるんで秋耕ができない場合は、4～5m間隔で排水溝を設置し、水はけを良くしましょう。
- ・秋耕と春耕との2回掛けによる15cm以上の作土深を確保しましょう。

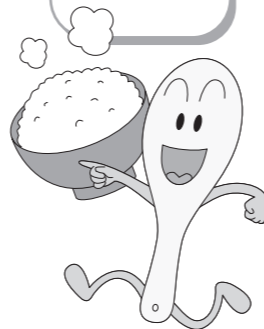
#### ポイント2 有機物の施用 … 地力の向上

- ・**有機物を積極的に施用し、土壌の腐植分や保肥力を高めましょう。**
- ・堆肥や発酵鶏ふんは、近年不足しているリン酸やカリの補給にも効果的です。
  - 牛ふん堆肥(1～2t/10a)または発酵鶏ふん(秋施用150kg/10a)
- ・稲わらや籾がらは貴重な有機物です。ほ場へ還元しましょう。

##### 《 有機物施用の効果 》

腐植の含量が高くなると、土壌の透水性や保水性、通気性が良くなり、養分の保持力が高まるとともに、微生物の増加が促され、地力が高まります。

積極的な土づくりで、  
収量・品質のよい米づくりに取り組もう！



#### ポイント3 ケイ酸質資材の散布 … 稲の体を強くする

・土壌中のケイ酸含量は施用を中断すると急速に低下するため、**継続して施用**しましょう。

##### ○主なケイ酸質資材(10a当たり標準施用量)

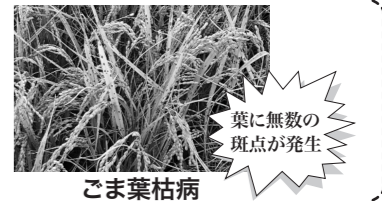
珪酸石灰(粒)	・土壌pHの矯正、ケイ酸分の補給 ・倒伏やいもち病に対する抵抗力の向上	160kg施用
シリカパンチF(鉄10%)	・土壌pHの矯正 ・倒伏やいもち病、ごま葉枯病に対する抵抗力の向上 ・鉄の供給による、秋落ちや高温障害の発生予防	120kg施用
アサヒニューテツ(鉄16.8%)	・土壌pHの矯正 ・倒伏やいもち病、ごま葉枯病に対する抵抗力の向上 ・根腐れの軽減	160kg施用

##### 《 ケイ酸質資材の効果 》

pHを高め、作物の養分吸収が高まります。ケイ酸がイネの葉・茎に運ばれて、光合成能力を高めるとともに、割刈を軽減し、病気や倒伏に強くする働きがあります。

##### 《 含鉄資材の効果 》

根腐れや下葉の枯れ上がり、ごま葉枯病を防止します。今年、ごま葉枯病の発生が多かった所は、鉄分を含んだ資材を積極的に施用しましょう。



#### ポイント4 地力増進作物の活用

・土壌中の腐植含量を高めるなど地力を向上させる手法の一つとして地力増進作物の導入が有効です。水稻や大麦と組み合わせて栽培することで、基肥を減肥することができます。

1年目

2年目

3年目

(例1) 水稻 ————— クロタラリア、レンゲ等 — 水稻

(例2) 水稻 — ヘアリーベッチ — 水稻

(例3) 水稻 — 大麦 ————— クロタラリア ————— 水稻

詳しくは、営農指導員にお問い合わせください。

★JAみな穂営農情報メールを配信しています。

主な情報  
提供内容

- ・水稻・大麦・大豆の生育情報及び今後の管理
- ・気象情報と災害防止の対策

右のQRコードを読み込み、案内に沿って手続きして下さい。

